

令和元年度第2回北九州市立図書館協議会 会議録

1 会議名 令和元年度第2回北九州市立図書館協議会

2 議題 ① 平成30年度 北九州市立図書館の運営に関する評価について
② その他

3 開催日時 令和元年11月28日(木) 13時30分～15時00分

4 開催場所 北九州市立八幡図書館セミナー室

5 出席者氏名

(1) 委員(会長他11名、欠席委員3名)

北九州市立大学図書館長	中尾 泰士
北九州市学校図書館協議会会長	本田 壽志
九州国際大学図書館長	松井 貴英
福岡県公立高等学校長協会北九州地区会長	丸内 毅
北九州市私立幼稚園連盟理事	村端 ひとみ
北九州市PTA協議会副会長	清水 良江
公募委員	嶋村 加代子
北九州市社会教育委員	宮本 和代
北九州市婦人団体協議会委員	黒田 美奈子
北九州児童文化連盟委員	柴原 佳代子
北九州市保育所連盟副会長	北野 久美
北九州青年会議所委員	末松 美緒

(2) 事務局(中央図書館長他3名)

中央図書館館長	小坪 正夫
中央図書館庶務課長	山口 奈穂子
中央図書館奉仕課長	福田 淳司
中央図書館子ども図書館長	古林 節子

6 傍聴者 1名

7 会議次第

議事(報告、質疑応答)

8 会議経過（発言内容要旨）

（1）議事

① 平成 30 年度北九州市立図書館の運営に関する評価について

「平成 30 年度 北九州市立図書館の運営に関する評価」について、事務局から説明。

『平成 30 年度 北九州市立図書館の運営に関する評価』について

視点 1「多様な施設とつながる図書館」について

（委員）

C 評価となっている大学図書館との連携については、こちらから働きかけがなかなかできない。どういうところから進めていけばよいか。大学と市立図書館の連携は何かあれば教えていただきたい。

（事務局）

あらゆる大学と連携することは難しい。ある大学と話す機会があった。例えば幼稚園教諭の免許取得を目指す学生が、図書館で子どもが実際にどんな本を読んでいるかを調べているというようなことが初めて分かった。まずは面識をつくり、具体的にできるところからピンポイントでつなげていくのが大事かと思っている。

（委員）

専門書は大学図書館、教養・文芸は市立図書館、うまく共存していければと思う。

（委員）

大学との連携の所に、司書の資格を取る大学生のバックアップとあるが、数はどうか。高校にも司書教諭を置かないといけないことになっており、一時は資格取得が進んだが、その方たちの退職を迎え 1 校 1 人配置が難しい。学生の興味というか増減を聞いてみたい。

（事務局）

ここに掲載した事例は、例えば八幡図書館や八幡西図書館での受け入れ事例である。中央図書館でも夏休みに 1 週間くらい、司書養成課程の学生を受け入れた。大学側は「受け入れてもらいたい」というニーズを持っているようだが、まだまだ始めたばかりで、人数としては少ないのが現状。将来に向けた人材育成という意味で、大切な取り組みだと思っている。

(委員)

ひまわり文庫の件だが、地域の市民センターはチラシが多すぎて見られない。センターだよりも図書館の情報が掲載されていると見やすく有効だと思う。センターの一層の活用・連携をお願いしたい。

(委員)

全ての学校に図書館司書がいるわけではない。ブックヘルパーさんもいるが、足りない学校もある。PTA協議会が、そこを補うお手伝いができるのではないか。学校図書館司書の取り組みがより一層推進されるよう、図書館から教育委員会に働きかけていただき、連携を取っていただければと思う。

(委員)

市立図書館の司書は県の研修会に参加できるが、学校図書館司書にはこういった研修の案内がない。スキルアップのため、同じ図書館司書である学校図書館司書にも外部の情報が届くようにしてほしい。

(事務局)

基準に基づき学校の司書教諭は適切に配置されている。学校図書館職員(学校司書)は来年度全ての中学校区で配置が完了する。学校図書館職員に対しては、市の研修はあるが、もっと広い視野での研修が必要という趣旨のご意見だと理解した。

(事務局)

委員のご意見は指導部へしっかりお伝えする。

視点2「市民の課題解決を支援する図書館」について

なし

視点3「子どもの読書活動を積極的に推進する図書館」について

(委員)

子どもに選書をさせた後の展開を何かを考えているか。読書習慣がないまま大学を卒業する子もいる。何かあれば参考にしたい。

(事務局)

2つの取り組みを紹介したい。1つは、今年度から、ヤングアダルト・中高生 25名が図書館運営に關与するジュニアサポーター制度をスタートさせる。もう1つは、既に行っている取り組みで、子ども読書会議。この会議は、子ども司書養成講座を受講した子どもが、自分たちの学校や地域で読書活動を広げていくにはどうすればよいか？ということ自ら議論するもの。折角子ども図書館ができたので、この会議の成果を実際に学校で展開する場を拡大するなど、積極的に推進していきたい。

(委員)

司書という枠組みがある以上、ジュニアサポーターが、特定の書籍をおすすめするのはルール上難しいのか？

(事務局)

選書に限らず、ジュニアサポーター自身が何がしたいかという気持ちを尊重することから始めていききたいと思っている。

(委員)

先日出産し、「はじめての絵本」を頂いた。確かに絵本は頂いたが、例えばいつから図書館に行って良いのかといったことはわからなかった。はじめての絵本事業のところでは評価がAとなっているが配布が99%となっているからか？もう少し外へ向けての発信が必要だと思う。

(事務局)

絵本セットの中に図書館カード申込書、絵本リストも入れているが、それだけでは不十分で、一歩を踏み出すための情報が必要という指摘を頂いた。改善していきたい。

(委員)

全体的にA評価でも良いと感じるものがある。AかBかの境目が見えにくい。(はじめての絵本事業の前身である)ブックスタート事業の時は、保育所で実際に読んで聞かせた上で絵本を渡していた。今は保育所の手を離れたため、入所の時に絵本の受け取りについて声かけが行われている。そうすることで、親との会話の糸口になる。評価の書き方だが、前回と今回の比較ができるような書きぶりにはどうだろうか。それから、読書通帳はとても人気で、大人も欲しい。

(委員)

内部評価が B であっても、外部評価を A とすることは可能かと思う。

(委員)

中高生は学校図書館が充実しているのでそこでまかなわれている。それで市立図書館利用についての数字が減少しているのではないかなと感じた。

(委員)

学校図書館が充実してきているのは事実。ただ、学校図書館職員は毎年いるわけではない。学校によってブックヘルパーも多い、少ないがある。予算面や人材育成も大変かと思うが、やはり学校図書館職員がいると有難い。ヤングアダルトと言われる中高生の図書館利用が少ないのは、部活動や塾通いで忙しいことが一番の原因。「いつでも読書」ということで、朝や給食準備時、健診待ち時などの隙間時間を上手く使って読書をする取り組みがある。アナウンスと努力が重要。

(委員)

学校間格差を補完するのが、公共図書館の役割だろう。

(委員)

小・中学校との連携について。図書館の見学だが、自分の勤めている学校の児童・生徒が実際に子ども図書館を見学し、読書通帳を作れたし、図書館カードもできて本を借りることもできて喜んでいる。評価は A でも良い。

子ども司書の養成については、子ども司書養成講座に行っていた生徒と協力して文化発表会でブックリサイクルをしたり、先生のおすすめの本をアンケートを取って展示したりした。子ども司書養成講座受講生の情報が、直接学校図書館職員に提供されると良いと思う。

学校関係者の人材育成支援については、人材育成のためには新しい人が入ると活性化する。学校図書館職員も底上げしていきたいと思う。

(委員)

今の図書館カードが簡単に作れる話は良い。高齢の人は図書館カードを持っていても思うように図書館に行くことができず、実際は失効している人も多いと思う。実際に使われる図書館カードという意味からも、若い人を増やすのは良い意見だ。

視点 4 「誰もが使いやすく、人や情報が交流する図書館」について

(委員)

親しみやすい図書館づくりが進んでいることを実感している。拡大補助具等の使われる率は？

(事務局)

リーディングトラッカー(読みたい行に集中して読めるように、両隣の行の文字を隠して読み進める読書補助具)は中央図書館では定期的に借りる方がいる。拡大読書器についても利用者はいる。読書バリアフリー法ができたので、予算と相談しながら今後拡充していく。

(委員)

ハンディのある方も楽しい時間が過ごせる図書館が必要。よろしくお願ひしたい。他県で、読書補助具の作成体験をしたことがあるが、本に親しむという観点から、イベントで、こういった物の作成体験なども検討してみてもいいだろうか。

(事務局)

11月から大活字本、拡大読書器、外国本などを集めた多文化共生コーナーを中央図書館に設けた。是非、ご覧になっていただきたい。ご活用もよろしくお願ひしたい。

(委員)

小倉南図書館は立派な吹き抜けもありとても気持ちいい。本も多い。職員も親切、カフェも応対良く、たくさんの方に行っていただきたい。親子で行ってほしいと子どもたちの親へ手紙も出した。図書館の横には、大きな広場があり、イベントをしたらいいし、その後に図書館も利用してもらえたらいいと思う。

(事務局)

地域のイベントで小倉南図書館も行事を協力してやった。地域の一員としてやっていくことが大切。意見を伝える。

(委員)

多文化共生の話があったが、外国籍の子が増えている。身体的なバリアフリー以外にも、言語面だったり、発達障害だったり、もう少し対象を拡大する必要がある。

(事務局)

今のご意見に対し、子ども図書館での2つの事例を紹介したい。子ども図書館には、90言語の世界の絵本がある。その本を使って、イベントでネイティブによる外国語での読み聞かせを行っている。また、多くの特別支援学級の児童・生徒に来館してもらい、多少声を発しようとも、自由に過ごしてもらう場を提供している。希望があれば、読み聞かせもしている。

(委員)

郷土資料のデジタル化の取り組み状況を見ると努力しているのに、C評価はどうか？

(事務局)

デジタル化(保存)はサービスとしては優先度が低い。昨年度、たまたま、ガラス乾版のデジタル化が業者の協力で無料でできたが、中央図書館としての明確な対応方針がなく、結果的に一部しかできなかったということでC評価とした。

(委員)

「誰もが使いやすい」ということを考えた場合、いくつかの図書館に本をきれいにする機械があると思うが、どの程度費用がかかるのか？市として今後設置館を拡大する考えはあるのか？

(事務局)

機械があるのは八幡図書館のみで指定管理者が設置している。ランニングコストも含め、100万円単位の経費がかかる。医療関係者の中には、本を介しての感染はないという意見もあるし、100万円あれば何冊本が買える？という議論もあるかと思う。現状、市として機械設置館を拡大する予定はない。ただ、八幡図書館のスタッフは、例えば八幡病院に読み聞かせに行く際は、この機械を使って持って行く本を消毒するといった配慮をしている。

(委員)

最近のことだが、本を開くとタバコの臭いがすごいという経験をした。食べ物のカスは多々あるが、タバコの臭いへの配慮はできないかだろうか。

(事務局)

返却時に1冊1冊点検することはなかなか難しい。返却者から汚したと報告があれば、賠償金も含めて対応している。本の外側は中性洗剤で拭いたりしているが中のページは中々できない。

視点 5 「市民参画型図書館」について

(委員)

時代に即した図書館づくりを推進するための図書館協議会の充実の所に、他都市の情報収集とあるが具体的にはどういったことを？

(事務局)

指定都市立図書館長会議等を通じて、広く色々な話を聞いている。勉強していかなければいけないと思う意見もたくさんあった。

(委員)

図書館ボランティアとは具体的に何をしているのか？

(事務局)

1番多いのは、返却本を棚に戻す配架などの作業。他にもイベントへの協力、汚れた本を拭く、除籍本のシール貼りやスタンプ押しなどもご協力いただいている。常時養成しており、14館全ての図書館で活動していただいている。

(会長)

総括の意見があれば。アンケートの分析とかでも。

(委員)

アンケート集計結果のうち、図書館についてのご意見を年代別に分析するとそれぞれの層のニーズが分かって良いのではないかと。

(事務局)

参考にさせていただく。

(委員)

図書館に行くワクワクするという取り組みが多く行われている。そのことを例えばキャッチフレーズをつけて打ち出していけるともっと良いと思う。

(委員)

世界中の図書館を見たが、ライブラリーショップが有って、オリジナルな物もあつたりするといいなと思う。キャッチコピーやネーミングを含めてワクワクして人を呼び込めるような図書館を目指していこう。

(委員)

アンケートの中に出てくる図書館業務の 1 日体験が、子ども以外にもあればと思う。仕事の中味がわかれば興味もわくし、先ほどの話に出た配架や本を綺麗にするといった様子を目の当たりにすれば、「こういった業務であれば私も挑戦してみよう」ということで、ボランティアに関心を持ってもらい、結果的に養成講座に参加してもらえることもあり得る。イベントの場などを活用し、是非取り組んでもらいたい。